

第 55 回全国大会のご案内

大会準備委員長 山田秀（熊本大学）

第 55 回全国大会は、2019 年 9 月 7 日（土）、8 日（日）熊本大学黒髪北キャンパス（熊本市中央区）で開催されます。ぜひご参加ください。大会テーマとプログラムの概要は以下のとおりです。大会プログラム委員会では、自由論題と準共通論題の報告者、およびラウンドテーブルを広く募集しますので、下記の募集要項に従ってお申込みください。

<大会プログラム委員会>

西部：小林甲一（名古屋学院大学）、永合位行（神戸大学）、鈴木純（神戸大学）、平手賢治（志學館大学）

東部：恩田守雄（流通経済大学）、織田照哉（慶応義塾大学）、森周子（高崎経済大学）

1. 大会テーマについて

*大会テーマ

「絆の経済社会学」

*テーマの趣旨

我が国におきましては近年震災やその他の自然災害とかが発生して、当事者はもとより皆が心を痛めている状況です。2011 年 3 月には東日本大震災に見舞われました。国内外の多くの支援が見られました。私自身も 2016 年 4 月の熊本地震に見舞われた身です。

そこで 2019 年 9 月に熊本大学で開催される第 55 回経済社会学会の全国大会では、こうした災害・災難などの非常時にそしてその後の復興期に民官挙げての様々な援助活動が繰り広げられる事態に含まれている人間的な意味を、或いは待たなしで私たちに突き付けられる高齢社会がもたらす諸問題、諸課題、その中には当然ながら福祉、介護の諸問題が含まれるでありましょうが、そうした種々様々な現代社会が抱える経済社会の問題を、それも経済社会学的な観点から問うていくことが可能ではなかろうか、さらに必要ではなかろうかと考えてみました。

こういう訳で「絆」という観点から経済社会学的な諸考察という実践と成果を持ち寄れないだろうかという問題提起を行いたいと考えます。「絆」というと何か最近いろいろな場所・地域においてそれも前触れもなく私たちに襲い掛かってきた災害・災難の非常事態に際会しましたら、私たちは、お互いが他者を深く思い遣って、「復興支援」という形で官民挙げて援助の手を差し伸べます。それは何故か？きわめて単純な事柄と思われるかもしれません。われわれ人間は、もともと一人では生きていけない。協力して力を合わせて助け合うことによって、時代・地域・文化の相違をたっぷりと含みながらも、今日まで生き抜いてきています。そこには、もちろん部族間での、あるいは国家間での戦いもみられた。そうした様々な局面を経験通過して、少しずつより人間に相応しい生存様式を生み

出している、むしろ、その途上にあると言うべきではないでしょうか。

人間を個人的でもあると同時にそれと切り離しがたい仕方で社会的でもあるという人間本性観に立脚する立場からは、言うまでもないことですが、上にのべた事態は「連帯性」の原理に色濃く反映されている筈です。様々な切り口から——何も震災に限らず、医療・介護などはもちろん、国境を超える活動もあれば地産地消にみられる地域づくりの取り組み、地域通貨の普及利用その他いろいろ、——人間の根本的な存在側面に及ぶ「絆」ないし「連帯」に関する諸考察を持ち寄ることが出来ますならば、幸いに思います。

2. 大会プログラムの概要

* 共通論題について

「絆の経済社会学」をテーマに、経済学や社会学など本学会が拠って立つ研究領域から 3 名の方にご報告いただき、予定討論を受けたうえでパネル・ディスカッションを展開します。この共通論題の内容や構成についてはプログラム委員会で検討し、設定させていただきます。

* 準共通論題とラウンドテーブルについて

大会プログラム委員会では、上記の共通論題と通常的自由論題以外にも、「準共通論題」：大会テーマに関連した論題の報告数本を 1 つに集めたセッション、ならびに「ラウンドテーブル」：会員から提案されたテーマに即して 1 本以上の研究報告をめぐり、問題意識を共通する数名以上の参加者が自由に意見交換する場を設定する予定です。どうぞ積極的にお申込みください。

3. 自由論題と準共通論題の報告、およびラウンドテーブルの設定について **[募集要項]**

大会プログラム委員会では、自由論題と準共通論題の報告、およびラウンドテーブルの設定について下記の要領により募集します。また、本学会には、「若手研究者支援制度 [唐澤基金]」がありますので、対象となる会員の方は積極的にご利用ください。

(1) 報告の申し込みと締め切り、結果通知および注意事項

- ◆申し込み：Eメールのタイトルを「経済社会学会報告申込（氏名）」とし、氏名、所属、論題、Eメールアドレス、連絡先住所、電話番号（携帯が望ましい）を示し、論題・所属・氏名を記した「報告の概要」（MSワード形式で、600字程度、目的・方法・考察・結論を明示した内容）を添付して、大会事務局のEメールアドレスまでお申し込みください。なお、ラウンドテーブルの設定を希望される場合は、①テーマと趣旨、②報告2～3本（論題・所属・氏名・概要）、③3名以上の参加者（報告者を含む）を添えてお申し込みください。
- ◆締め切り：~~2019年4月30日（火）~~ **5月18日（土）**
- ◆結果通知：報告の可否については、大会プログラム委員会にて、提出された「報告の

概要」をもとに検討したうえで、6月上旬の東西合同役員会終了後、6月下旬までに、報告の日時および座長・予定討論者などと合わせて E メールにてお知らせします。

◆注意事項：①原則として、申し込み後に論題および報告者の変更・追加はできませんので、ご注意ください。

②会費納入について

今年度（2018年9月～2019年8月）までの会費を完納していることが報告の前提条件となります。会費が未納の方には、このニューズレターとともに会費請求書と払込用紙が同封されています。

非会員の方は、4月末までに入会手続きと会費納入を完了してください。

入会手続きおよび会費納入先は、下記の学会 HP をご覧ください。

また、その場合は、報告申し込みのメールに「入会手続き中」である旨を明記してください。

経済社会学会 HP「入会」 <http://web.waseda.jp/assoc-soes/join>

③「若手研究者支援制度 [唐澤基金]」の適用を希望される場合は、全国大会報告の申し込み時に事前の申請が必要です。ご注意ください。

なお、この制度については、詳しくは経済社会学会 HP「若手研究者支援制度 [唐澤基金]」<http://web.waseda.jp/assoc-soes/karasawa> をご覧ください。

(2) 報告要旨の提出

報告要旨集を作成しますので、報告される方は、その原稿を以下の作成要項に従って作成し、**2019年7月16日(火)**までに E メールにて大会事務局にご提出ください。

[報告要旨の作成要項]

分量は A4 版 4 ページ以内（図表含む）。MS ワード形式で作成された文書で、書式はフォント:MS 明朝 10.5 ポイント、改行幅 1 行、ページ番号なし、余白:上下左右 30mm。

論題 1 ページ上段中央、氏名（所属）は次の行右端。

(3) 発表原稿の提出

報告される方は、上記の報告要旨以外に、大会で発表される報告内容の詳細や議論の流れを把握できる「発表原稿」（フルペーパー等）を E メールまたは郵送にて **2019年8月20日(火)**までに座長・討論者・大会事務局にそれぞれご送付ください。

(4) 発表原稿等の配布

報告される方は、「発表原稿」ないしはそれをもとに作成された報告資料を印刷したものを用意し、会場で配布してください。

(5) 問い合わせ・提出先

国立大学法人熊本大学 法学部

経済社会学会 第 55 回全国大会事務局 担当：山田秀

〒860-8555 熊本市中央区黒髪2丁目40番1号

TEL : 096(342)2813 (山田研究室)

Email : ses2019090708@yahoo.co.jp